2015 年 6 月 12 日

天下の悪法を成立させない！
私たち“働く者”の声が届き、強行採決を阻止！
～来週のヤマ場に向け、引き続き連合は闘いぬく！～

労働者保護ルール改悪阻止のため、連合は、6 月 12 日（金）、国会前で怒りの座り込み行動、夕刻から日比谷野外音楽堂で集会およびデモを行なった。 この日は厚生労働委員会で労働者派遣法の強行採決が予定されていたが、委員長により質疑の終局が宣言されたものの、何とか採決は見送られた。 この間の全国の仲間の怒りの声が強行採決阻止に結びついたものだ。連合は引き続き、天下の悪法廃案に向けて闘いぬく。民主主義を踏みにじる安倍政権の暴挙を絶対許すことはできない。

■国会前、“怒り”の座り込み行動

座り込みには、構成組織・地方連合会・退職者連合から 720 名が参加した。行動開始集会では、古賀伸明連合会長が「安倍政権の暴走が続いている。労働者派遣法案は、いつ強行採決されるかわからない状況だ。年金の情報漏れ問題にフタをして採決しようなど、まさに暴挙だ。このままでは日本は沈んでしまう。まれにみる悪法の廃案にむけ、連合は断固として闘う」と挨拶した。

続いて民主党の岡田克也代表が「安倍総理はいつも『成長』と言っているが、労働者派遣法案は成長にマイナスにしかならない。何年働いても賃金があがらず、しかも雇用が不安定な派遣労働者は、結婚や子どもを持つことを断念している。そういった人たちの生活の基盤をしっかり作るのが政治の役割だ。連合のみなさんの力添えで労働者派遣法案はまだ採決に至っていないが、政府は強行採決の姿勢を崩していない。民主党は、連合と力をあわせて闘い抜く。」と力強く挨拶した。

その後、全国から国会前に結集した地方連合会の仲間や民主党をはじめとする国会議員が次々に決意表明を行った。

まとめ集会では、神津里季生連合事務局長が「民主党の議員のみなさんが私たち働く者の思いを受け止めてくれたおかげで採決が阻止された。『民主党が委員会を欠席している』という報道しかされていないが、好き好んで欠席しているのではなく、与党が数の横暴で国会運営を押し切ろうとするからだ。連合全体のネットワークを使っ

てこうした本当の姿を伝えなければならない。労働者派遣法改正案が成立してしまったら、日本はボロボロになってしまう」と挨拶。続いて民主党の蓮舫代表代行が「皆さんの真摯な声をしっかり受け止め、声を力に、行動を力につなげ、体を張ってでも労働者派遣法案に反対の姿勢を貫く。来週以降もしっかりと闘っていく。」と決意を表明した。

■怒りの大集会とデモ行進

延べ 3725 名が日比谷野外音楽堂へ集結し、怒りの大集会を開催した。

冒頭、古賀連合会長は「安倍政権は国民の疑問や不安に答えないまま、強引な国会運営をしている。数の論理で国会を運営することは断じて許せない。我々は反対の意思を行動で示し続ける。労働者保護ルール改悪に絶対反対という社会のうねりをおこしていこう。」と挨拶。

民主党からは枝野幸男幹事長が「皆さんが国会を取り巻き、全国で怒りの声を上げていただいたおかげで、今日の強行採決は阻止できた。民主党は引き続き全力で闘う。戦後復興、高度成長を支えてきたのは、一部のスーパーマンではなく、多くの“普通の働く人の力”だ。その人たちが最大限力を発揮できるようにしなくてはならない。暴走する安倍政権にブレーキをかけるため、力を合わせて闘おう。」と力強く挨拶した。

続いて、３人の方から連帯挨拶をいただいた。「労働者派遣法改正案も労働基準法改正案もさらなる格差の拡大、貧困の増大につながる法案だ。」（日本弁護士連合会副会長・鈴木克昌氏）、「過労死は人災。働き方の仕組みを変えれば防ぐことはできる。過労死を促進するような法案を黙って見過ごすことはできない。」（全国過労死を考える家族の会代表・寺西笑子氏）、「政府が進めているのは、『時間無制限デスマッチ法案』だ。これでは死ぬまで働き続けさせられてしまうことになる。」（ダイバーシティコンサルタント・渥美由喜氏）と、力強い訴えがなされた。

また、派遣労働者の方からは「派遣の賃金は、あがらないどころか、むしろ下がっている。待遇を上げてほしいと、労働者として当たり前の要求をしただけで、雇止めされた。どうしてこんな目に合わなければならないのか。」と訴えがなされた。さらに、運輸労連からは「運輸業界は人より 2 割多く働き、3 割賃金が少なく、負荷も大きい。労働時間規制が緩和されたら、さらに労働条件が悪くなることは明らかである。絶対に成立を許すことはできない。」と悲痛な訴えがあった。

春木幸裕情報労連書記長の決意表明、氏家常雄連合会長代行による「団結がんばろう」で集会を締めくくったのち、有楽町・東京駅方面へデモ行進を実施し、道行く人たちにワークルール改悪阻止を訴えた。

連合は引き続き、労働者保護ルールの改悪に断固反対していく！

以　上